

## 団長の独り言

「劇団の歴史を感じながら」

小山 恵子

「団長の独り言」を、愛読のみなさま、  
こんにちは。小山恵子です。

創立25周年記念第42回「人生芸夢  
く夢のとおり道く」は、お蔭さまで今  
回も大成功を収めることができました。  
お寒い中、劇場に足を運んでくださり、  
誠にありがとうございます。  
今回の公演は「創立25周年記念」、  
その文字を目にする度、25年か：：  
としみじみと歴史を感じます。

また劇場でパンフレットと一緒に  
お客様へお配りした「チラシで見るふあ  
んハウスの歴史」では、42回公演まで  
のチラシがずらりと並んでいて、こんな  
にも多くの舞台を開催してきたのかと  
目の当たりにして、劇団ふあんハウスつ  
て凄いなと公演が終わって落ち着いた  
今、改めて感じています。  
またどの公演もお客様から喜ばれて  
幕を下ろしているのですから、ただた  
だ長く続けているだけではありません。  
お客様から期待され、それに応えるよ  
うに頑張り続ける。

常に観にいらしてくださいるお客様の為  
にと決してブレルことのない強い信念で、  
団長は脚本、演出そして役者をやって  
劇団ふあんハウスを続けてきました。

だからこそ今日があります。  
いつの日か、団長の人生を脚本に書いて  
もらえたら：：きっとドラマチックで興  
味深い作品になること間違いなしです。  
たぶん2時間の舞台じゃ収まりきれな  
いですね(笑)。

さて、私がメンバーになって6回目の舞  
台に出演した時は同じ「人生芸夢」、  
でも副題が「く私の青空く」でした。  
今回はちょうど20年前にやった「人生  
芸夢く夢のとおり道く」と聞いて前々  
から楽しみにしていたのが殺陣です。  
もちろん私は20年前は出演していま  
せんが、舞台で殺陣のシーンがすごく  
カッコよかったと噂では聞いていました。  
小学生のころから忍者モノのTVや  
映画を好んで観ていたので、殺陣が見  
られるのを楽しみにしていました。  
稽古では、技斗や殺陣を習得し、時代  
劇の出演経験もある団長の指導のもと、  
メンバー全員で殺陣をやりました。

お手本となる団長の姿をみていると  
正眼の構えも他と全然違って、

刀をふりあげた身体の開き具合等、  
立ち居振る舞いが全てにおいて決まっ  
ていて、本番までなんとかしなければ  
と不安になったのを思い出しました。

「人生芸夢く夢のとおり道く」は、  
色々な人生経験をして芝居小屋にた  
どり着き、違う境遇で生きてきた座  
員が芸を通じて気持ちを一つにして、  
助け合いながら困難に打ち勝って続け  
ている。

正に「劇団ふあんハウス」そのもので親  
近感がありました。

役作りでは、いくら才能を認めている  
とはいえ、働らかず、パチンコばかりし  
ている旦那のどこがいのだらうかと思  
ってしまい、「惚れちまうと簡単には別  
れられないのだらう」と言われる度、心  
の中で「そんなヒモ男に惚れないから」  
という気持ちはどうしても抜けなくて  
苦労しました。

そんな時、何十年振りかで竹本さんと  
庄平役で共演することになり、稽古を  
重ねて行くうちに、「なるほどなあ  
こういふところに惚れたんだなあ」と  
と、どんどん好感をもてるどころが増  
えて行って、役との距離が一気になく  
なりました。

あるシーンでは庄平(竹本さん)の表情  
を見ると、何とも言えない悲しみと絶

望感で涙がどうしても溢れ出てきて  
しまうところがありました。

竹本さんは何十年もブランクがあるな  
んて思えないほど、身体や心、全てに  
おいて自然に演じていた様に思います。  
それに影響され、私も町子として生き  
ることができました。  
ありがとうございます。  
7月公演もお世話になります、よろ  
しく願います！

演劇活動をずっと続けて行く中で、  
色々な出会いや、出来事がたくさんあ  
ると思います。  
25年ともなると、それはそれはたく  
さんのドラマがあったことでしょう。  
応援してくださいるお客様、舞台スタッ  
フさん、公演受付スタッフさん皆さん  
の温かなご支援があったからこそ、ここ  
まで続けてやってこれました。

これからも感謝の気持ちを忘れずに、  
いつも前を見て一歩一歩進んで行きたく  
いと思います。  
今後とも劇団ふあんハウスをよろしく  
願います！